

津久見市の小児医療・小児保健の向上を目指して

# こどもの病気対策法⑥7

— 3歳6か月児健診編 —

津久見中央病院 小児科 糸永知代

今回は健診シリーズの最後となる3歳6か月児健診についてのお話です。

3歳6か月児健診で私たちが必ず問いかけるのは「お名前は？」という質問で、どんな様子で答えてくれるのかという点も一緒に診ています。それまでの健診でうちの方だけにお話を聞いていたのは対照的に、お子さん本人との会話のやり取りが重要な位置を占めてきます。2歳6か月～3歳6か月くらいは、自我が芽生える年齢で、自分で歩いて、意味のある単語を言えるようになって、色々な能力が身につくにしたがって、子どもは自分でできることを自由に自分でできることが楽しくなったり、だんだんと親から自立してきます。健診における診察では、チェックリストにあるような自立の基礎となる身体発育(身長、体重)、運動(階段を登れるか)や言葉の発達、視力・聴力などを診ています。「お名前は？」という質問への答え方により言葉の状態が分かり、更に質問をやり取りすることで言葉の理解度をチェックすることが出来ます。また、坐っていてくれるか、顔を見て答えてくれるかどうかという観察から、行動面での困りごとなどがないかを推察しています。

この時期は、自立が進む反面、自己主張が強くなり親の干渉を邪魔に感じるようになってきます。「ギャングエイジ(年齢)」「第一反抗期」とも言われていますので、健診の短い

診察時間では十分なやり取りができないほど、拒否されることもあります。その際は、普段の様子をおうちの方に聞かせてもらっています。

ギャングエイジのお子さんたちは、まだ社会のルールも知らずに、自分の思い通りにならないことや、大人の「ダメ」に直面していきます。おうちの方にとっては、ハラハラしたり、イライラしたりすることも多い時期ですが、それは自然な成長過程であり、問題にぶつかりながらも反抗しながらも体当たりで、他人の存在や社会性を身に着けていくことになるのです。なので、それを支える大人の根本には子供のできることを親が心から一緒に喜んでくれるといった気持ち(初めて歩いた時の初めて「ママ」「パパ」としゃべった時のような)で、子どもの独立していく姿を暖かく支えてあげてください。その際に私たちが力になれるのは、お子さんの自立の基礎となる発達の段階を見極めて必要に応じて支援の方法を考え、そしてそれを見守るおうちの方を支えることだけかもしれません。様々な専門家が関わること、沢山の発見があると思います。健診には、保健師、歯科医、小児科医だけでなく、栄養士、看護師、保育士、歯科衛生士、言語聴覚士といった様々な分野の専門家が待機しています。どんな些細なことでもよいので、ぜひ相談されてみてください。

## 3歳6か月児の発達チェックポイント

### 【3歳6か月健診での主な質問項目】

- 一人で足を交互に出して階段を登れますか？
- 片足で2～3秒立えますか？
- まねして○をかけますか？
- 衣類を脱ぐ、パンツをはくことができますか？
- 排泄(おしっこ、うんち)で困っていることはありますか？
- 友達に「かして」と言えますか？
- 自分の名前(姓も名も)が言えますか？
- 簡単な文章が言えますか？
- 「大きい」「小さい」が分かりますか？
- 「赤」「青」「黄」「緑」が分かりますか？
- 麻疹風しん、日本脳炎、三種混合や水痘、ムンプスなどの予防接種は終わりましたか？

以下の項目にチェックができないからといって、必ずしも病気であるとはいえませんが、そのなかに、早期発見すべき病気が隠れていることもあります。気になることがあれば、健診時、または小児科医にご相談ください。

### 【3歳6か月健診で小児科医が診ている主な項目】

- ・体つきはどうか(低身長ややせや肥満はないか)？
- ・おしゃべりが上手になっているか？
- ・目の動き、見え方はどうか？
- ・脳や筋肉、内臓に病気はないか？(もしあった場合、早期に発見して治療しないといけません)
- ・情緒や社会性の発達(周囲への興味やコミュニケーションの様子)はどうか？
- ・行動面の困りごとはないか？(落ち着きがない、かんしゃくをおこす、こだわりが強いなど)